



「伊豆 歴史散歩」

～中伊豆・北伊豆編～

静岡県立中央図書館
歴史文化情報センター

「伊豆 歴史散歩」 ～中伊豆・北伊豆編～

静岡県立中央図書館 歴史文化情報センターのホームページにお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

歴史文化情報センターでは、『静岡県史』で収集した所蔵資料や県内の市町村史などを使い、「伊豆 歴史散歩」を作成しました。

これまでの「東伊豆編」、「南伊豆・西伊豆編」に続き、今回は中伊豆北伊豆地域の歴史ガイドです。

伊豆市・伊豆の国市・函南町・三島市に残る歴史と名所旧跡を、スライドにてご案内いたします。

スライドには、関係する参考URLを表示しましたので、そこからアクセス方法や施設等の詳しい情報を取得して下さい。

「伊豆 歴史散歩」から、伊豆の新たな魅力の発見があれば幸いです。

「伊豆 歴史散歩」 ～中伊豆・北伊豆編～ 掲載内容

【伊豆市】

- No.4 伊豆わさび栽培の祖「板垣勘四郎翁の碑と天城のわさび田」
- No.5 文豪井上靖と『しろばんば』の里・天城湯ヶ島
- No.6 古代船「枯野(からの)伝説と軽野神社」
- No.7 御用絵師狩野派の祖は伊豆の豪族だった「狩野城跡」
- No.8 ぶどうの王様「巨峰」はここで誕生「大井上理農学研究所」
- No.9 中世歴史の舞台「修禅寺」
- No.10 伊豆最古の木造建築「指月殿」と「頼家の墓」

【伊豆の国市】

- No.11 源頼朝配流の地「遺跡蛭ヶ小島 と夫婦像」
- No.12 国宝・運慶仏五体を所蔵「願成就院」
- No.13 伊豆の戦国大名「北条早雲と葦山城跡」
- No.14 伊豆葦山代官所跡「江川邸」
- No.15 明治日本の産業革命遺産「葦山反射炉」

【函南町】

- No.16 桑原地区の宝物「かんなみ仏の里美術館」
- No.17 国指定史跡「柏谷(かしや)横穴群」

【三島市】

- No.18 北条流築城術「山中城跡」
- No.19 ハイカーに人気「箱根旧街道石畳と錦田一里塚」
- No.20 伊豆国一宮「三嶋大社」

伊豆わさび栽培の祖「板垣勘四郎翁の碑と天城のわさび田」

歴史文化情報センター資料



- 伊豆天城の名産品といえば、山葵(わさび)と椎茸が良く知られています。わさび栽培は、板垣勘四郎が江戸時代の延享(えんきょう)元(1744)年、駿河国安倍郡有東木(うとうぎ)村(現静岡市)からわさびの苗を持ち帰り、天城山岩尾地蔵伽藍(がらん)の地で始めたと伝わります。(右図 板垣勘四郎翁の碑文より)
- 天城産わさびは天明年間に江戸に出荷され、良質な香気と辛味で名声を博します。文化年間には鯖(サバ)の生臭さを消すために初めてわさびが用いられ、わさびを挟んだ小鱈(コハダ)の握り寿司が文政年間には江戸っ子の人気となりました。
- 明治2年の湯ヶ島村の収入を見ると、63%はわさび、21%は椎茸です。わさびの栽培が始まり270年、今でも天城産のわさびは私たちの食を楽しませています。
- [「清々しい緑が美しい山葵沢 リンク先:伊豆市役所観光経済部観光交流課ホームページ」](#)



- 井上靖は北海道旭川に生まれました。軍医であった父の従軍のため、両親の故郷である天城湯ヶ島で祖母と2人で幼少期を過ごします。豊かな自然に恵まれたその頃の情景は、『しろばんば』に詳しく描かれています。登場人物の「おぬい婆さんと洪作の像」(右図)は、井上の母校である伊豆市旧湯ヶ島小学校の入口にあります。
- 井上が母校に贈った「地球上で一番清らかな広場」詩碑(左図)は、旧湯ヶ島小学校の運動場北側にあります。
- 「地球上で一番清らかな広場」
北に向かって整列すると、遠くに富士が見える。廻れ右すると天城が見える。
富士は父、天城は母。父と母が見ている校庭でボールを投げる。
誰よりも高く、美しく、真直ぐに、天にまで届けと、ボールを投げる。
※ 校内への立ち入りは、伊豆市天城支所への事前連絡と許可が必要です。
- 「井上靖文学館 [リンク先:井上靖文学館ホームページ](#)」



- 『日本書紀』によると、応神天皇の頃、天皇が伊豆国に命じて船を造らせたところ長さ10丈(約30m)の巨船が完成し、その船は軽く浮かび速く走ったので、その船を枯野船と名付けたという伝承が残ります。現在、枯野船の模型が伊豆市にある昭和の森会館内に展示されています。(左図)
- 伊豆市湯ヶ島町松ヶ瀬に鎮座する「軽野神社」(右図)は、古代船「枯野」を造ったという伝説の地で、その際に祭られた神社と伝えられます。付近には船原・大楠という地名も残り、伊豆の山地から狩野川の水運を利用して船材(楠木)を運び出し、造船を行ったと考えられます。また、軽野(かるの)は狩野(かの)の語源とされます。
- 枯野伝説は、『天城の史話と伝説』(未来社刊)に詳しく掲載されています。
- [「昭和の森会館 リンク先:ハローナビしずおかホームページ」](#)

御用絵師狩野派の祖は伊豆の豪族だった「狩野城跡」

歴史文化情報センター資料



- 狩野城(かのじょう)が造られたのは平安後期といわれ、狩野茂光(もちみつ)の頃には、伊豆韮山に流されていた源頼朝が度々訪ねてきたという伝説が残ります。
- 狩野城は周囲を川や谷に囲まれ、空堀や土塁を築いた中世的な山城(やまじろ)です。現在、狩野城跡には陣地であった各廓(くるわ)が整備されています。左図の中廓には、「狩野介茂光公保墨之跡」と刻まれた石碑(右図)が建っています。
- 狩野茂光の子、宗茂(むねもち)の系統から、後の絵師の狩野派が出たという伝承が残ります。狩野景信(かげのぶ)は、六代将軍足利義教(よしのり)の御前で富士山を描き、その長男正信は京都に出府して将軍の奉公衆(ほうこうしゅう=親衛隊)となりました。正信を祖とする狩野派は、元信・永徳・探幽と続き、織田・豊臣・徳川幕府の御用絵師として活躍し、後の画壇にも大きな影響力を持つ流派となりました。
- 現在でも旧天城湯ヶ島町の寺院には狩野元信・探幽筆の絵画が残されています。
- [「狩野城跡 リンク先:伊豆市役所観光経済部観光交流課ホームページ」](#)

ぶどうの王様「巨峰」はここで誕生「大井上理農学研究所」 歴史文化情報センター資料



- 大井上康(おおいのうえやすし)は、広島県江田島の海軍兵学校官舎で生まれました。大正3(1914)年には東京農業大学を卒業し、茨城県にある神谷酒造所牛久葡萄園の技師となり、葡萄の交配育種と作物栽培法の研究を熱心に行いました。
- 大正8(1919)年、知人の紹介で静岡県田方郡下大見村(現伊豆市)に洋館(右図)の大井上理農学研究所を設立し、本格的に葡萄研究に取り組みます。渡欧して葡萄についての理論と栽培の実践について各国で学び、その著作『葡萄の研究』で研究成果が認められ、フランスアカデミー会員に推挙されています。
- 現在では作物栽培の常識となった「栄養周期説」を唱え、各地に栽培技術を伝えました。昭和17(1942)年、岡山県産の「石原早生」とオーストラリア産の「センテニアル」とを交配して大粒で糖度の高い葡萄の作出に成功しました。この葡萄は研究所から畑越しに見える富士山にちなんで「巨峰」と命名され、現在でも秋の味覚として愛されています。
※ 現在資料館は担当者不在のため、見学できません。
- [「大井上康学術文献資料館 リンク先:ふじのくに文化資源データベースホームページ」](#)

中世歴史の舞台「修禅寺」 伊豆市観光協会所蔵資料



- 修善寺温泉の中心に位置する「福地山修禅寺(ふくちざんしゅぜんじ)」は、平安初期弘法大師の開基と伝わります。付近には大師伝説が数多く残り、門前の桂川の溪流には大師が密教の宝具「独鈷杵(とっこしよ)」で湧出させた「独鈷(とっこ)の湯」があり、錫杖(しゃくじょう)を空に投げて落ちた場所に、今の「修禅寺」を建てたという伝承が残ります。
- 現在の本堂(右図)は明治16(1883)年に再建されたもので、本尊は大日如来坐像です。左図は平成26年9月の山門修復の落慶法要の様子です。山門脇の仁王堂には、指月殿(しげつでん)より移設された二体の金剛力士像が安置され、修禅寺を守護しています。
- 宝物殿には、新歌舞伎の傑作『修禅寺物語』創作のきっかけとなった、頼家由来と伝わる「古面」や修禅寺裏山から出土した「独鈷杵」などの寺宝が展示・公開されています。
- 戦国時代、荒廃した修禅寺を再興するため、韮山城主であった北条早雲が石雲院から隆溪繁紹(りゅうけいはんじょう)禅師を迎え、曹洞宗に改宗して現在に至っています。室町時代より寺名を「修禅寺」、地名を「修善寺」と区別して表記するようになりました。
- 「[曹洞宗福地山修禅寺](#) [リンク先:福地山修禅萬安禅寺ホームページ](#)」



- 二代将軍となった源頼家は、幼少から才気活発で弓馬に長じ、富士野の巻狩りでも高名を上げたほどの腕前でした。父頼朝の死後、頼家は将軍独裁を試みますが、鎌倉開幕以来の宿老は合議制とし、頼家と北条氏との関係も次第に悪化していきます。
- 建仁3(1203)年、頼家は病気療養を口実に修禅寺に幽閉されます。その翌年、祖父である北条時政の謀略により、修禅寺門前の虎溪橋際にあった箱湯で暗殺されました。享年23歳という若さでした。
- 母である北条政子は頼家の冥福を祈り、「指月殿(しげつでん)」(左図)を造営しました。指月とはそこに指し導くもの、つまり經典のことで、「指月殿」とは経蔵のことです。政子は頼家の墓(右図)のそばに経蔵(寺)を建て、「宋版大蔵経」を納めたと伝えられます。
- 右図の正面大きな供養塔は元禄16(1703)年、頼家没後五百回忌の際に寄進されたものです。その後ろの左側に小さく見える五輪塔が、頼家の墓と伝えられます。
- [「指月殿 リンク先:ふじのくに文化資源データベースホームページ」](#)



- 永暦元(1160)年、平治の乱に敗れた頼朝は、伊豆の蛭ヶ小島(ひるがこじま)に流罪となりました(左図)。頼朝はこの地で先祖の菩提を弔い、一生を終えるはずでしたが、20年余の配流生活の中、在地の豪族と親交を深めていきます。
- 頼朝は平家方の監視役であった伊東祐親の娘八重姫との間に千鶴丸をもうけて祐親の怒りを買い、その後も平家方の北条時政の娘政子と結ばれています。その際、北条政子は父の勧める山木兼隆との婚礼の夜、熱海の伊豆山神社へ逃げたお話は「伊豆歴史散歩 東伊豆編」で案内したとおりです。
- 現在蛭ヶ小島は公園となり、右図のように頼朝と政子の像「蛭ヶ島の夫婦(ふたり)」が富士山を仰いで立っています。頼朝の血脈は三代で滅びますが、頼朝亡きあとは政子が尼将軍として君臨し、北条氏が幕府政治を独占していきます。
- [「蛭ヶ小島 リンク先:静岡県総合教育センターホームページ」](#)



- 願成就院(がんじょうじゅいん)は、源頼朝の奥州藤原氏討伐の成功を祈願し文治5(1189)年に北条時政が建立しました。鎌倉幕府二代執権義時・三代執権泰時の代には多くの堂塔が建立され、大いに繁栄したと伝えられます。
- 現在、大御堂には仏師運慶作の阿弥陀如来坐像のほか、毘沙門天像・不動明王像等五体の国宝が安置されています。五体とも運慶35歳頃の作品で、豊かな量感と写実性を踏まえた力強い作風は、見る者に大きな感動を与えてくれます。
- 宝物館には尼将軍政子七回忌の際、北条泰時が奉納した「政子地蔵菩薩像」(右図)が、父の「北条時政公坐像」と並んで安置されています。
- 願成就院の近くには堀越公方(ほりごえくぼう)御所跡や北条政子産湯の井戸等の史跡が残り、この一帯が北条時政の屋敷(館)跡であったと考えられています。
- **【国宝】願成就院の運慶作諸仏** [リンク先:伊豆の国市ホームページ](#)



- 北条早雲は、姉(妹とも)の北川殿が今川義忠に嫁いだ縁で駿府に来たと伝えられています。義忠戦死の後には北川殿の子である氏親(うじちか)を支援して家督を継がせ、その後も氏親と軍事行動を共にし、今川勢力拡大のために忠実に働きました。
- 明応2(1493)年、早雲は伊豆の堀越公方(ほりごえくぼう)足利茶々丸を攻め、実力による支配を開始しました。伊豆における下剋上の最初の事件です。その後早雲は韮山城に本拠を置き、伊豆の支配確立と関東進出を企図します。
- 早雲の子の氏綱の代には、相模に侵攻して本拠地を小田原城に移します。その後も北条氏にとって韮山城は領国支配と防衛の重要拠点であり、その中心として機能しました。左図は韮山城跡入口、本城の天ヶ岳山頂からは田方平野を一望できます(右図)。小田原征伐では4万の秀吉軍に包囲されますが、約10分の1の兵力で籠城し、最後まで落城しませんでした。韮山城は戦国時代の典型とされる城郭です。
- [「韮山城跡 リンク先:ハローナビしずおかホームページ」](#)

伊豆韮山代官所跡「江川邸」 歴史文化情報センター資料



- 江川家は大和源氏の祖・源頼親(よりちか)を祖とし、永暦元(1160)年大和の宇野から伊豆の八牧(やまき)郷韮山に移り住みました。その後は、源頼朝の旗揚げに参加し、戦国の頃には北条早雲の家臣となり、有力な在地領主として成長します。
- 江戸時代には徳川幕府に臣従し、伊豆・甲斐の天領27万石の領地を支配する世襲代官となりました。その役宅も兼ねた建物は現在重要文化財に登録されています(左図)。
- 江川邸の主屋(おもや)は南北18m・東西24m・高さ約12mの大きさです。約50坪ある土間に入ると主屋の大屋根を支えている柱や梁が縦横に組み合わされている様子(小屋組み)を見ることができます(右図)。広い土間は、上杉謙信や織田信長にも献上された銘酒江川酒の作業場であり、日本で初めてパンを焼いた窯も展示されています。
- 主屋の最高部には鎌倉時代の日蓮上人直筆の「火除けの札」(曼荼羅)が木箱に納められています。そのためか古来江川邸は火災にあったことがなく、明暦の大火で炎上した江戸城再建には、将軍家の要請で江川家の棟木を一本献上したといわれます。
- [「重要文化財伊豆韮山江川邸 リンク先:江川文庫ホームページ」](#)

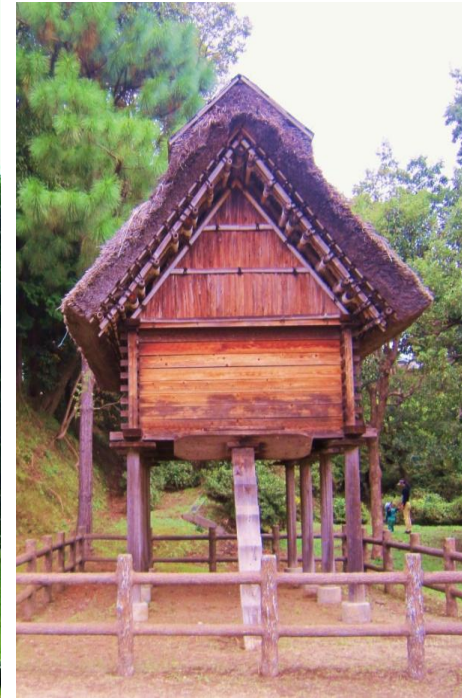
明治日本の産業革命遺産「韮山反射炉」 歴史文化情報センター資料



- 江川太郎左衛門英龍(坦庵)は、幕末の開明的な韮山代官です。ペリー来航以降、高島流砲術の採用や品川台場の築造、農兵制の建議等海防家の立場から幕府の軍備に関する改革を行い、韮山には銃砲製造の要となる反射炉を築きました。
- 反射炉とは銑鉄(せんてつ)を溶かして鉄を生産する溶解炉です。溶かした鉄は鑄型に流し込み、大砲などに加工されました。周囲には作業小屋や倉庫が立ち並び、当時は武器の製造工場として機能していました。
- 実際に生産された大砲は鉄製・青銅製あわせて100門以上、海路にて品川台場まで運ばれ、備え付けられた大砲は28門といわれます。
- 現在は溶解炉と煙突だけが残っていますが、実際に大砲を製造した反射炉としては国内唯一現存するもので、「明治日本の産業革命遺産」の一つとして世界遺産登録を目指しています。
- [「国指定史跡韮山反射炉 リンク先:伊豆の国市ホームページ」](#)
- [「江川坦庵 リンク先:歴史文化情報センターホームページ」](#)



- 函南町桑原地区には、住民が大切に守ってきた仏像が残ります。廃仏毀釈の嵐にも屈せず、地域の宝である仏像を後世に継承するため、桑原の有志により長源寺の裏山に「桑原薬師堂」が建てられ、そこで保存されてきた仏像です(薬師堂の見学可)。
- 左図「薬師如来坐像」は平安時代に大伽藍を誇っていた新光寺(廃寺)の本尊と伝えられる仏像です。右図「阿弥陀如来及び両脇侍像」は北条時政が石橋山の合戦で戦死した嫡男宗時供養のため、仏師実慶に依頼して造像させたものといわれます。
- 「十二神将立像」の頭頂部には、いずれも十二支の動物が乗っており、いかめしい表情とは相反する作者の遊び心が伝わります。桑原薬師堂に安置されていた24体の仏像は、現在「かなみ仏の里美術館」で拝観することができます。
- [「かなみ仏の里美術館」リンク先:かなみ仏の里美術館ホームページ](#)



- 国指定史跡「柏谷横穴群」は通称「柏谷百穴」といわれる古代の墓所です。この横穴群は軽石を含む岩盤を穿(うが)ち、東西600m・南北250mにわたり、現在でも100基を数えることができます。総数は300基を超えるもので、静岡県内でも最大規模を誇る横穴墓群といわれます。
- 左図の横穴群は、調査の結果3時期にわたり23基の横穴墓が2段に造られていることが分かりました。同所の副葬品は死者の供養で使ったと考えられる土器類(土師器はじき・須恵器すえき)や鉄製品、玉類などが出土しています。
- 横穴墓の場所は柏谷公園の奥(北側)に位置しています。柏谷公園は芝生広場や遊歩道等も整備され、町民憩いの広場となっています。公園内には、高床倉庫(右図)や竪穴住居の復元等もあり、気軽に歴史散策を楽しむことができます。
- [「国指定・柏谷横穴群 リンク先:函南町ホームページ」](#)

北条流築城術「山中城跡」 歴史文化情報センター資料

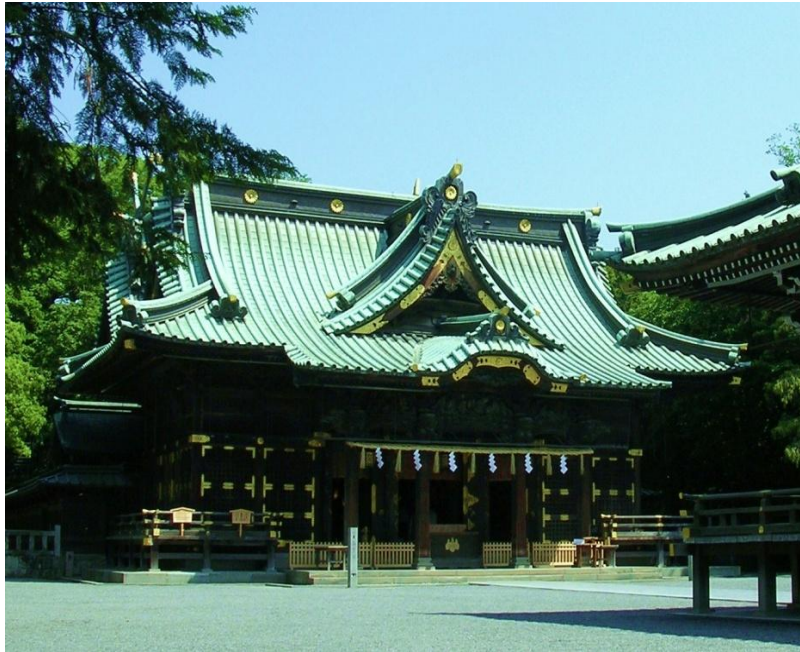


- 「山中城」は、小田原に本城を置いた後北条氏(北条早雲の子孫)が国境警備のために築いた山城です。標高580mに位置し、駿河湾・三島・沼津など伊豆地方北部から駿河地方一帯を見渡すことのできる軍事上の要衝でした。
- 天正18(1590)年3月、小田原征伐の秀吉軍7万に攻め込まれ、山中城はわずか半日で落城します。その激しい攻防戦の様子は、中村一氏(かずうじ)の家臣で、「山中城一番槍」を果たした渡辺勘兵衛の『渡辺水庵覚書』によって伝えられます。
- 左図は「障子堀」、右図は「畝(うね)堀」といわれる防御施設です。当時は関東ローム層の赤土が表面を覆い、甲冑をつけた武士がこの堀に落ち込むと滑って簡単に上がれないように造られていました。北条流築城術の特徴をよくあらわす遺構です。
- [「山中城跡公園」リンク先:三島市役所ホームページ](#)



- 箱根旧街道は、慶長9(1604)年江戸幕府が整備した五街道の中で、江戸と京都を結ぶ東海道のうち、小田原宿と三島宿を結ぶ箱根八里(約32km)の区間をいいます。
- この街道には、通行の人馬を保護する松や杉の並木が作られ、道のりを正確に知るために錦田一里塚(左図)のような一里塚が築られました。また、街道の表土は関東ローム層の赤土で大変滑りやすかったため当初は細竹が敷かれていましたが、後に石畳に改修されました。
- 石畳は幅二間(約3.6m)を基本に、この付近で採取された安山岩を基礎を作らずに土の上に敷き並べたものです。右図は山中城跡近くの腰巻地区に残る石畳です。休日には三島・箱根間の旧東海道をハイキングする方の姿も多く見られます。
- [「箱根旧街道石畳 リンク先:三島市役所ホームページ」](#)
- [「江戸時代の陸上・河川交通 リンク先:歴史文化情報センターホームページ」](#)

伊豆国一宮「三嶋大社」 三嶋大社所蔵資料



- 三嶋大社(左図)の御祭神は、大山祇命(おおやまつみのみこと)・事代主命(ことしろぬしのみこと)の二神です。三嶋大社は源頼朝が平家打倒の挙兵に際し、源氏再興を祈願した事で有名な神社です。鎌倉時代には歴代将軍が参詣し、南北朝時代には足利尊氏もこの地で戦勝祈願を行っています。
- 境内には、重要文化財の本殿・幣殿・拝殿が立ち並び、宝物館には北条政子奉納の国宝「梅蒔絵手箱」をはじめとする貴重な資料が収蔵されています。
- 祭事は年間を通じて行われています。正月7日に「田祭」が本殿にて行われその後、舞殿において県無形民俗文化財に指定されている五穀豊穰を祈る神事「お田打ち」(右図)が奉納されます。また、同月17日の奉射祭は年の初めに世の邪悪を射払い、人々の悪病退散を祈る神事としても知られています。
- [「三嶋大社 リンク先:三嶋大社ホームページ」](#)